



刊週日三第二二二第
發行日三十月七
東京支店 丸の内三丁目一丁目
電話 五五八〇
東京支店 丸の内三丁目一丁目
電話 五五八〇

平驛を中心とした ハイキングコース (三)

平 華 生

コース沼の内界財 鬼頭神佛に因んだ奇勝
平驛から沼の内まで八軒から起立して居る。鳴り響く
水もあが歩いても坦々。飛んで沖邊に海船の往
たる道だから二時間位の。潮騒の音、ほのか
た。場所には海苔の石城の香、都座を離れ仙
那、豊岡村大字沼の内界に遊ぶの心地、真の一片
沿と云ふ池の傍にも真言の繪も又時もある
宗密院院賢沼寺の所屬に
一。居る。此地は松、潤葉名なる鹽屋の燈台、俗稱
樹の丘陵に圍まれ清き風光と云ふのに出る。巖然
花崗岩の砂地が緩き風光と云ふのに出る。巖然
致に富んだ周囲約一軒程
此處の辨財天は天城天皇
の御代徳徳大師の開基に本
のもので昔坂上田村磨が東
夷征伐の時特に祈願をこめ
たと云ふ由緒のあるもので
ある。又池水頗る清冽中で
には鯉、鮒、ゼニタナゴ、
メダカ、カラス貝等が多数
棲息し猶土俗の信仰から観
の養生禁断が永い歳月に至
つて厳守されて居る為め三
尺四尺と云ふ古鯉が何千何
百となく群棲して居るので
有名である。この鯉の習性
として面白いのは普通では
姿を見せぬが縁の先に餌
を投げて水面近く下りては
唯一の第二種重要漁港とし
て又新興進んで燃ゆる漁港
の助成と云はるが、ちやう
業都市たらんとして水産其
他幾多の工場の建設中であ
る。小名濱町(現在人口一
の時官軍の兵隊等がこの沼
の鯉を獲つて食つた處その
祟りて皆病死したとか、或
はこの土地の生意氣者がこ
れを獲つた為めに一家絶死
するに至つたなど噂を聞か
ずして居る為め鯉は殖る
一方でこの鯉はさき天
然記念物に指定されて一層
の保護を受けることになつ
た。この辨財天か、程遠から
ぬ處に清き海岸、ある。此
處に、鬼岩、紫の河原

賀大高卒業 茨城師範校

球雲 小野務平

天資好學有聲譽
讀破和洋萬卷書
益壽多功不暇
業成今自臨郷關

講談 秘密小天狗

中川雨之氏作
近藤 鐵氏書

おんかつこてん
「なかに、俺ひとりでは、
唯一の第二種重要漁港とし
て又新興進んで燃ゆる漁港
の助成と云はるが、ちやう
業都市たらんとして水産其
他幾多の工場の建設中であ
る。小名濱町(現在人口一
の時官軍の兵隊等がこの沼
の鯉を獲つて食つた處その
祟りて皆病死したとか、或
はこの土地の生意氣者がこ
れを獲つた為めに一家絶死
するに至つたなど噂を聞か
ずして居る為め鯉は殖る
一方でこの鯉はさき天
然記念物に指定されて一層
の保護を受けることになつ
た。この辨財天か、程遠から
ぬ處に清き海岸、ある。此
處に、鬼岩、紫の河原



あつた。あの涼しい姿、
強い中に、言ふに言、ない
強しめるある舉動だが、
深く胸にこびり着いて、忘
れることが出来なかつた。
藤兵衛は、黙つて惣五郎
の話を聴いて居た。しかし
心には思ひ、後の下手
に、江戸市中の目明し連も
いづれも血眼になつて下
手、十手、十手の落ちて居
た。戸田さんが笑つてゐる
目も光る。
「お婆はさすが女だけに、
怪しい男が、家の附近を
を捲いた
それか、お婆は、た、
であつた。

その頃、正雪の陰謀は、
夜が明けるとともに、今
看々として準備を急いで居
た。
徳川幕府三代の礎を、根
底から顛覆して、新しい
理想の天下を建設しよう
といふのである。
いかにま乾坤一擲の大任
事だ。
その大事業に秘めて、
一代の風雲児比呂部之助
正雪は、牛込坂町の張孔堂
から、密に機軸を狙つて居
るのである。
それは、五月雨のシト
正雪の屋敷では、今夜茶
の湯の會があるといふので
宵の口から銀客が集つて
来た。だが、その客といふ
のは、茶の湯の客とは思へ
ぬやうな、頭数は總て
八十五人、頭数は總て
十四五人、いづれも難を隔
つた奥の奥敷へ、車座にな
つて居る。
「お婆は、五月雨のシト
正雪の屋敷では、今夜茶
の湯の會があるといふので
宵の口から銀客が集つて
来た。だが、その客といふ
のは、茶の湯の客とは思へ
ぬやうな、頭数は總て
八十五人、頭数は總て
十四五人、いづれも難を隔
つた奥の奥敷へ、車座にな
つて居る。
「お婆は、五月雨のシト
正雪の屋敷では、今夜茶
の湯の會があるといふので
宵の口から銀客が集つて
来た。だが、その客といふ
のは、茶の湯の客とは思へ
ぬやうな、頭数は總て
八十五人、頭数は總て
十四五人、いづれも難を隔
つた奥の奥敷へ、車座にな
つて居る。

「話の中に夜を明した
夜が明けるとともに、今
看々として準備を急いで居
た。
徳川幕府三代の礎を、根
底から顛覆して、新しい
理想の天下を建設しよう
といふのである。
いかにま乾坤一擲の大任
事だ。
その大事業に秘めて、
一代の風雲児比呂部之助
正雪は、牛込坂町の張孔堂
から、密に機軸を狙つて居
るのである。
それは、五月雨のシト
正雪の屋敷では、今夜茶
の湯の會があるといふので
宵の口から銀客が集つて
来た。だが、その客といふ
のは、茶の湯の客とは思へ
ぬやうな、頭数は總て
八十五人、頭数は總て
十四五人、いづれも難を隔
つた奥の奥敷へ、車座にな
つて居る。

「お婆は、五月雨のシト
正雪の屋敷では、今夜茶
の湯の會があるといふので
宵の口から銀客が集つて
来た。だが、その客といふ
のは、茶の湯の客とは思へ
ぬやうな、頭数は總て
八十五人、頭数は總て
十四五人、いづれも難を隔
つた奥の奥敷へ、車座にな
つて居る。

「お婆は、五月雨のシト
正雪の屋敷では、今夜茶
の湯の會があるといふので
宵の口から銀客が集つて
来た。だが、その客といふ
のは、茶の湯の客とは思へ
ぬやうな、頭数は總て
八十五人、頭数は總て
十四五人、いづれも難を隔
つた奥の奥敷へ、車座にな
つて居る。

「お婆は、五月雨のシト
正雪の屋敷では、今夜茶
の湯の會があるといふので
宵の口から銀客が集つて
来た。だが、その客といふ
のは、茶の湯の客とは思へ
ぬやうな、頭数は總て
八十五人、頭数は總て
十四五人、いづれも難を隔
つた奥の奥敷へ、車座にな
つて居る。

「お婆は、五月雨のシト
正雪の屋敷では、今夜茶
の湯の會があるといふので
宵の口から銀客が集つて
来た。だが、その客といふ
のは、茶の湯の客とは思へ
ぬやうな、頭数は總て
八十五人、頭数は總て
十四五人、いづれも難を隔
つた奥の奥敷へ、車座にな
つて居る。

「お婆は、五月雨のシト
正雪の屋敷では、今夜茶
の湯の會があるといふので
宵の口から銀客が集つて
来た。だが、その客といふ
のは、茶の湯の客とは思へ
ぬやうな、頭数は總て
八十五人、頭数は總て
十四五人、いづれも難を隔
つた奥の奥敷へ、車座にな
つて居る。

「お婆は、五月雨のシト
正雪の屋敷では、今夜茶
の湯の會があるといふので
宵の口から銀客が集つて
来た。だが、その客といふ
のは、茶の湯の客とは思へ
ぬやうな、頭数は總て
八十五人、頭数は總て
十四五人、いづれも難を隔
つた奥の奥敷へ、車座にな
つて居る。

故障の起らぬ 原口のラジオ

ラジオで聴こう。時局ニース
ラジオは是非——
専門店
原口無線電機株式会社代理店
古山電気商會
平市二丁目 (警察署通り)
電話(呼出) 166

サンマニニューウス

高麗な味覚
豊富な栄養
松月堂のアイスクリーム
松月のアイスクリームを近代人の要求に
ツタリと合つた夏季嗜好品なのです
御遠方御持参にはホームパックを
御利用下さい
銀座通 松月堂
電話二〇〇六

ガソリン不要

鋼脚あり
力強く只一言
絶対優良
特殊鋼製
帝國號
神風號
機關銃印
自轉車
自轉車
各種重量リヤカー
フタバ商會
新川町郵便局前

木村外科醫院

内科 外科 花柳科 一般 (入院隨意)
平市六丁目 (橋際)
電話三〇九

吉田眼科醫院

醫學士 吉田久
平市紺屋町 電話六八番

岡田乳牛

断然一賣行よし
信用と品質
共に備つて
平市鎌田町
電話五一

一般貨物運搬

迅速低廉に御取扱ひ致します。
福好工業合資會社
代表者 強口唯七郎
自動車部
砂利、砂の御用命に對しては特に廉
價にて御供給致します。

孝昌

日本姓名會東北支部長
平市紺屋町 三六
「健康不健康、相貌
(病根病勢、病名)に
關する一切
(適業、不適業)
(天運成功、不成功
(災厄)に關する一切
(父母の縁、夫婦の縁
子供の縁、有無の縁
(氣質、相性、相克、婚
期方位に關する一切

刃織田材木商店

建築木材一式
電話 四六〇番
電話 四六〇番

小瀧は招く

一日の清遊には……
どうぞ小瀧温泉へ!
「女中入用」
鐵道指定旅館
小瀧 鑛泉
電話小名濱一〇三

自動車商會

平市二丁目
電話六四〇番

腸胃病性

内科 專
花柳病科
性病科
皮膚科
院醫科性腸胃村松
(番七〇一電町南市平)

目項定鑑

命運の代一てみの前名
……るかわめてん何
活。力。体。肉。疾。肉。
動。動。病。病。病。病。
血。縁。天。職。運。業。
男女。家。族。運。業。
期方位に關する一切

